

9. ココナッツの伝説（出所不明）

昔々、高い山の近くに、心の優しい母が住んでいました。彼女は幼い子どもたちを心から愛し、彼らを世話するため、そして食べさせるためによく働きました。そしてこれは楽な仕事ではありませんでした。なぜなら、彼女には10人の子どもがいたからです。

ある悲しい日、母は大変な病気になり、眠るようにならかに亡くなりました。彼女は、家の裏庭にある簡素な墓に葬られました。彼女の10人の子どもたちは彼らの愛する母を亡くしたことで大変悲しくなって、庭に座って、すすり泣いたり、泣き叫んでいました。

「だれが、わたしたちの世話をしてくれるんだろう？」と一番年上の少年が泣きました。「だれがわたしたちを食べさせてくれるんでしょう？」と彼のひとりの妹が泣きました。「だれがわたしたちの服を洗ってくれるんでしょう？」と、もうひとりの妹が泣きました。

突然、庭に輝く光が現れて、全身白い服の美しい婦人が、驚いている子どもたちの前に現れました。「恐れないで」白いその婦人は微笑みました。「あなたたちの母はあなたたちを見捨ててはいません。彼女の霊は、あなたたちそれぞれ、みんなの心の内側に生きていて、そこに永遠にとどまっていることでしょう。しかし、あなたがたの母の墓の世話をし、毎日そこを訪ねなさい。もし、私の言うとおりにあなたたちが行こうなら、あなたたちの母があなたたちを大変愛していること、そして彼女が死んでからも続けてあなたたちの世話をし、ということを見ることになります。」これらの慰めの言葉を言って、その白い服の婦人は、現れた時と同じように、突然消えてしまいました。

子どもたちは、その白い服の婦人に直面していたのですが、その言葉を理解することができませんでした。しかし、彼らの愛する母への敬意を払って、毎日彼女の墓を訪ねて、雨の日も晴れの日も世話をしていました。

数日過ぎて、子どもたちは、彼らの母の墓の真ん中から小さな木が育っているのに驚きました。それは大変速く成長し、数時間のうちに、家の高さにまで伸び、その高い先端近くに、大きなすばらしい実をたくさん抱えていました。

子どもたちはびっくりしました。この木は、あの白い服の不思議な婦人が言った言葉と関係があ

るのでしょうか。「わたしにその木に登らせて、実を手に入れさせてくれ。」と興奮した一番年上の息子が言うと、彼はすぐに先端に向かって、その木の幹によじ登りました。彼はすぐに、いくつかのその大きく、重く、すばらしい実を取り、下の弟や妹のいる地上に落としました。他の兄弟も興奮して、自分のベルトからナタを取り出し、その奇妙な形の実に切って穴を開けました。

「実の中にはジュースがあるわ。」とひとりの妹が、実から純粋な液体が滴っているのを見て、叫びました。彼女ははやる思いで、その爽快なジュースを飲みました。「おいしい！」彼女は微笑みました。残りの弟たちや妹たちは、このジュースを味わうのを待ちきれずに、残りの実に穴を開け、内側の液体を飲みました。すぐに、彼らはみんなその甘い味わいの液体によって、爽快になりました。

すると、兄弟の一人がナタを取り出して、実を半分に分けて、この不思議な実の内側が甘く香る白い果肉におおわれているのを見て驚きました。兄弟のひとりが、用心深く、この不思議な白い実を味わい、そして言いました。「おいしい！」すぐにすべての実は半分になって、空腹な子どもたちは感謝してその白い果肉をすべて、むさぼり食べました。

「この不思議な実で」と一番年上の兄は「私たちは、生涯十分に食物を食べ、飲んで、生きながらえることができるだろう。」と言いました。そして、幸せな子どもたちは残った不思議な実を庭の地面に植えました。数日後、彼らの庭はもっと高い木々に覆われ、たくさんのすばらしい実がなりました。

その日から、10人の子どもたちはもはや空腹になったり喉がかわいたりすることはなくなりました。白い服の婦人が与えた言葉は、実現しました。彼らの母は彼らを見捨てず、墓を越えて、彼らを養い、扶養し続けたのです。

これはおいしいココナッツの実の始まりで、わたしたちはそれを現在では「ブコ」と呼び、今日でも引き続いて、それを食べたり、飲んだりしています。